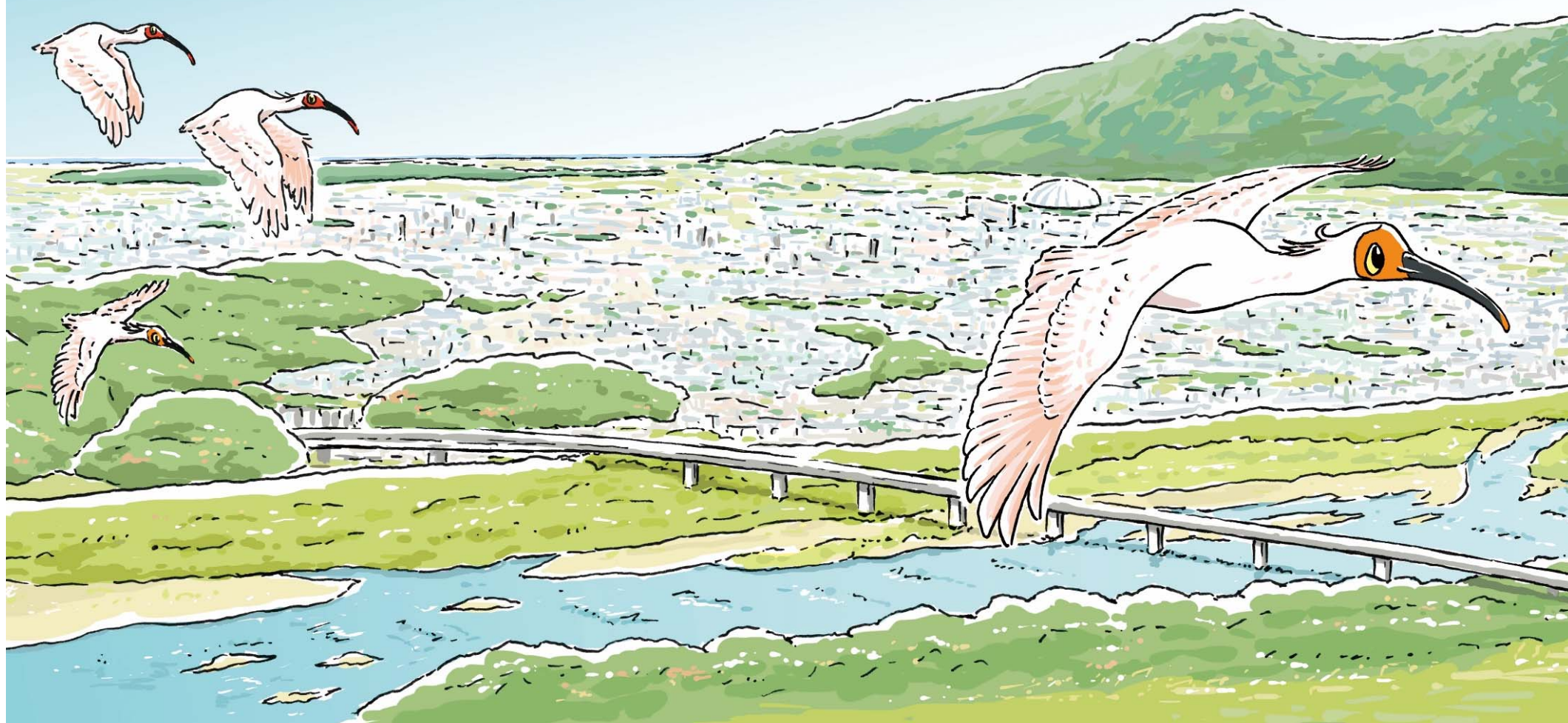
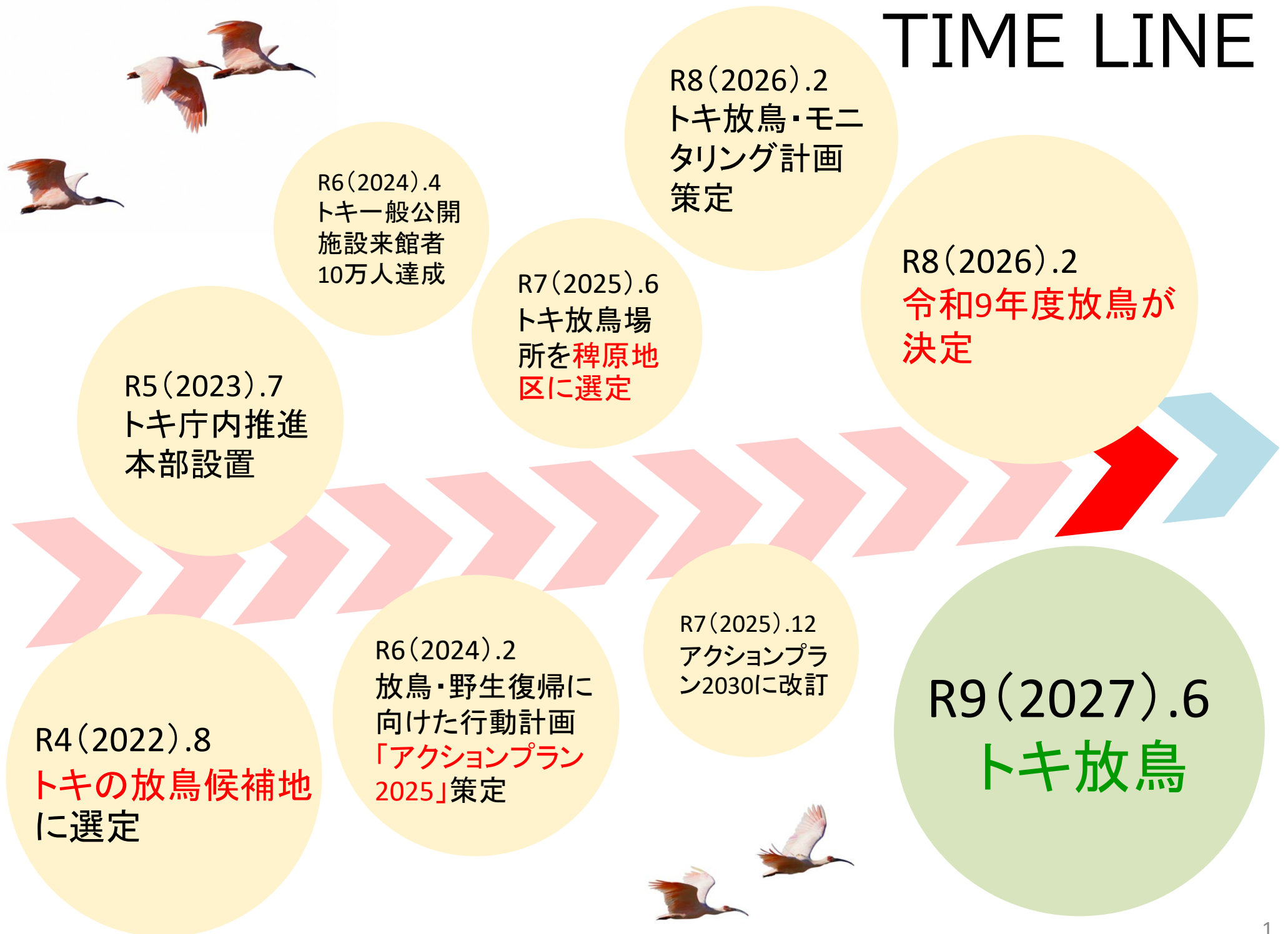


出雲市トキによるまちづくり構想

アクションプラン2030 取組状況



TIME LINE



市民の環境意識の向上

普及啓発の強化・価値観の共有化

■シンポジウムの開催

トキの放鳥を心待ちにしていだけるような機運を醸成するため、毎年、シンポジウムを開催。より多くの方に共感、賛同していただけるよう地元ケーブルビジョンで全編繰り返し放送を実施。

令和7年度 テーマ「つなぐ・つなげる」

- 日 時 令和7年12月20日
- 会 場 ラピタウェディングパレス
- 講演会 (公財)日本鳥類保護連盟 会長 小宮輝之氏
※出雲市トキ野生復帰アドバイザー
- 座談会 小宮氏・出雲市長・地元自治協会 柿本氏
みなもかん 辻井氏・出雲村田製作所 大畑氏
- コーディネーター (公財)ホシザキグリーン財団 林氏
- 参加者 100人



■いずもトキファンクラブの設置

令和7年7月から、公式LINEアカウントサービスを活用し、プッシュ型で情報発信。情報発信にあたっては、NPO法人いずも朱鷺21や出雲村田製作所・島根島津・島根富士通で構成する運営協議会を設置し、官民連携で情報を発信(R8.6末現在1,650人が登録)。



■トキ放鳥決定記念イベントの実施

人気絵本作家である村上康成氏の発信力を用いて、新たな切り口から、これまでトキに関心のなかった方にも広くトキの放鳥・野生復帰に向けた取組の周知を図るため、参加型のワークショップを開催する。

- 日時 令和8年8月9日
- 場所 稗原コミュニティセンター
- 参加者 小学生30人
- 申込締切 令和8年7月17日



市民の環境
意識の向上

普及啓発の強化・価値観の共有化

■ 様々な情報媒体を活用した情報発信

ホームページやSNSの活用、ケーブルテレビへの出演をはじめ、令和8年5月には、島根スサノオマジックの公式戦のゲームパートナーとして、来場者にPRするなど、様々な機会を通じてトキの取組を周知した。
また、令和8年8月から令和9年2月までの間、JAが発行する「JAしまねびより」の地区本部ページに毎月連載していただくことになった。



■ トキ色の活用

市のイメージカラーのトキ色を活用し、竹あかりワークショップを実施。完成した竹あかりは、市役所東側で1か月間展示した。また、各課が作成する印刷物にトキ色やミコトッキーを積極的に活用した。



■ 愛宕山公園 近似種の飼育施設設置

愛宕山公園内にトキ近似種の飼育ケージを設置し、令和8年3月からアフリカクロトキの飼育公開を行った。



市民の環境意識の向上

若年層に向けた発信力の強化
農業者・関係者の理解醸成

■トキのオリジナル絵本作成

幼少時からトキに愛着を持っていただくために、オリジナル絵本を作成。図書館をはじめ、保育所、幼稚園、小学校、子育て関連施設、コミセン等に設置。令和7年度から、3歳児健診時に受診者全員に贈呈。



■啓発パネルの作成 小中学校に掲出

子ども向けに、トキの生態を季節別にまとめた啓発パネルを作成。ポスターにして8枚1セットを小中学校に設置。また、学校によって授業に活用。



■トキ学習講座の開催等（令和7年度主要事業）

市主催の学習講座や他団体との連携による出前講座を実施。

- ・島根大学学習会(6/14)
- ・夏休み学習会「トキまち探検隊」(8/9)
- ・神戸川小学校 総合的な学習(9/4)
- ・自然体験イベント「田んぼで生きもの探し」(10/11)
- ・出雲市生涯学習講座(11/20)
- ・ロータリークラブ地元探検プロジェクト(11/24)



■地元説明会の実施

初回の放鳥場所として、稗原地区を選定し、地域の機運を高めるとともに、重点的な餌場環境整備、ソフトリリースの設置場所の選考を依頼するため、説明会を複数回実施。



市公式SNS登録者に対する認知度調査

	R5.8	R6.9	R7.8
登録者数(延べ人数)	41,267人	44,836人	48,219人
回答者数(回答率)	642人(1.56%)	737人(1.64%)	1,376人(2.85%)
分散飼育センターのトキを見たことがある	65.6%	68.4%	66.9%
放鳥候補地に選定されたことを知っている	55.0%	59.6%	67.2%
トキをシンボルとした環境にやさしいまちづくりに賛同する(賛同しない)	93.7% (0.9%)	91.1% (0.8%)	89.5% (1.4%)
令和9年度放鳥を目指していることを知っている	—	29.5%	41.7%
いずもトキファンクラブの開設を知っている	—	—	23.5%

【複数回答可の設問】

■放鳥に向けて必要なことは何か

- ①放鳥場所となる地域住民の理解(994件)
- ②トキの餌場・ねぐらの確保(960件)
- ③普及啓発(691件)
- ④農業者の理解(633件)
- ⑤環境にやさしい農業の推進(571件)

■放鳥に期待することは何か

- ①自然環境の保全(980件)
- ②環境保全意識の向上(834件)
- ③出雲市の知名度の向上(640件)
- ④出雲市に対する誇り・愛着の高まり(637件)
- ⑤観光入込客数の増加(243件)

■放鳥により心配することは何か

- ①見物人のマナー違反(私有地立入、路上駐車)(741件)
- ②放鳥したトキが出雲市に住みつかないこと(548件)
- ③トキによる農作物の被害(539件)
- ④農業への制約(農薬・化学肥料の削減等)(432件)
- ⑤トキのフンによる被害(416件)

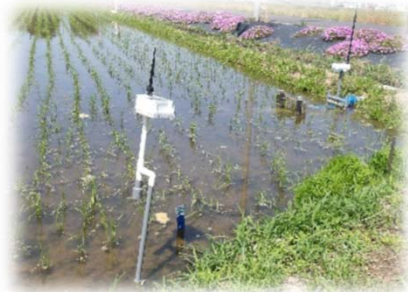
令和8年度に無作為抽出による認知度調査を実施予定

環境にやさしい
農業の普及

環境にやさしい農業の推進
既存制度の活用・推進

■環境にやさしい農業研究会

環境にやさしい農業技術体系・農産物のブランド化戦略の検討を実施するとともに、トキの生息環境に資する水田管理の実証試験を実施。有機米栽培が抱える課題に対応した普及性のある栽培方法の確立に向け、市内2か所のほ場87aで有機JAS基準での水稻栽培実証試験を実施。現在、実証米を「出雲のお米」として、出雲空港や神門通り周辺のお土産品店で販売。



■通年湛水箇所の整備・新出雲農業チャレンジ事業の活用

地域の営農組合や民間企業、日本鳥類保護連盟、日本生態系協会と連携し、水田内に通年湛水箇所となる江を設置。また、市単独で個人が行うビオトープ整備を支援(上限20万円。補助率10/10)。



■ 餌資源量調査の実施

稗原地区野尻町内の水田18か所において、通年に渡り、季節ごとの調査を実施。餌となる生物を捕獲し、餌となる生物の生息密度(個体数、湿重量)を調査し、調査範囲の餌資源量を推計した。

調査の時期や方法等が同一でないため、出雲市と佐渡島の調査結果を単純には比較できないが、出雲市の餌生物の生息状況は、放鳥開始時の佐渡島トキの生息地と比較して同程度であると推測できた。

【調査結果】

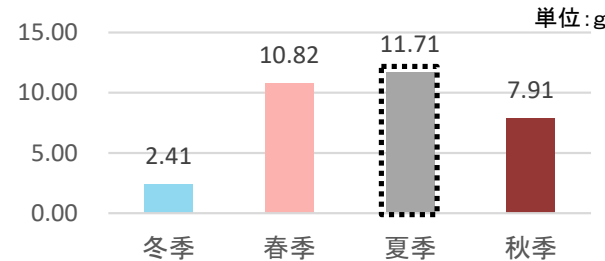
調査環境	湿重量密度(g/m ²)			
	冬季	春季	夏季	秋季
水田	1.58	9.18	—	5.57
江	17.05	25.73	52.90	40.82
畦畔	8.12	23.42	4.93	24.84
全体	2.41	10.82	11.71	7.91

- ・冬季が最も湿重量密度が低く、春季になると大幅に増加する
- ・江は年間を通じて湿重量密度が高い

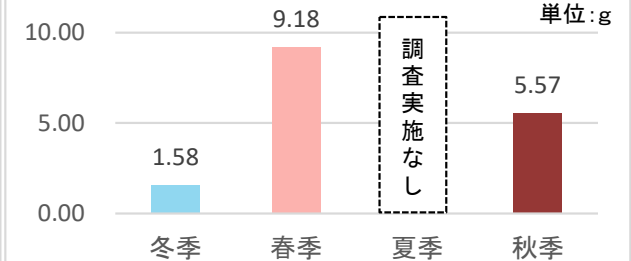
季節・調査環境ごとの湿重量密度



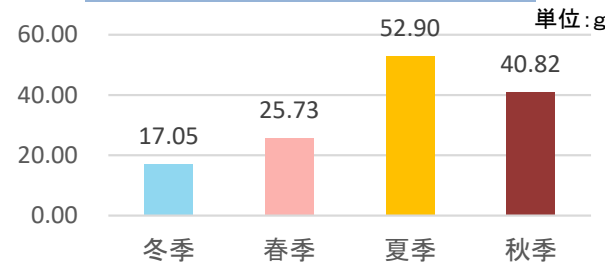
【全体】湿重量密度の季節間の比較



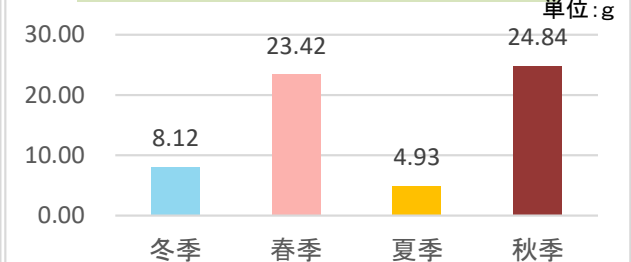
【水田】湿重量密度の季節間の比較



【江】湿重量密度の季節間の比較



【畦畔】湿重量密度の季節間の比較



豊かな生態系の再生

森林や水辺の再生と活用

■ 斐伊川水系水鳥プロジェクト

斐伊川水系生態系ネットワークの形成に向けて、広域圏で取組を実施。出雲河川事務所では、大型水鳥類の生息環境づくりとして、現在、斐伊川河川敷に人工水域の整備を検討中。また、令和7年9月に新潟県朱鷺メッセで開催された応用生態工学学会新潟大会に市長がパネリストとして参加し、市の取組を発表。



斐伊川水系ネットワークイメージ図
(提供:国土交通省出雲河川事務所)

■ 河川・湖沼周辺の清掃活動

トキが生息するための良好な水辺環境を整備するため、用排水路、河川、宍道湖・神西湖などの清掃活動を支援。



■ 水生生物調査の実施

市内のため池12地点を対象に水生生物調査を実施。また、調査結果をもとに作成した小学生向け冊子を配布し、環境教育に活用。



豊かな生態系の再生

放鳥に係る体制づくり

■ 放鳥方法

仮設ケージから自然に出ていくのを待つソフトリリースを基本に、トキを箱に入れて放鳥場所で放すハードリリースの併用で実施する。稗原地区内において、候補地の検討を進めるとともに、放鳥に向けた課題整理を行う。放鳥羽数は最大20羽とし、令和9年初夏に放鳥する。2回目以降の放鳥場所については、継続実施による生息効果や放鳥したトキの分散状況、仮設ケージの設置経費等を踏まえ、総合的に判断する。



ソフトリリース



ハードリリース



放鳥個体には環境省が足環型の追跡機器を装着
(資料提供:環境省)

■ 放鳥後のモニタリング体制の構築

放鳥したトキの生存・分散状況や生息環境の把握のため、モニタリングチームの結成、制度化を進める。あわせて、目撃情報を収集するためのシステムの構築を図る。



■ 傷病・死亡等の緊急時の体制構築

傷病個体や死亡個体が発見された場合は、県と連携し、状況に応じた適切な処置を行い、今後の取組に反映させるため、傷病や死亡の原因の把握に努める。

また、観察マナーの周知にあたっては、環境省が作成した「あなたのまちにトキがやってきたら」のパンフレットをもとに、周辺自治体も含め周知に努める。

人的交流・
地域活性化

つながる人の輪
トキを出雲市の新たなブランドへ

■ 中国漢中市との国際交流の促進

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、一時中断していた中国漢中市との国際交流について、令和7年度から再開し、今後も相互交流の促進を図ることを確認。



■ 佐渡市・能登への職員の研修派遣

放鳥に向けて、佐渡市・能登地域(羽咋市)に視察を行った。能登では、ソフトリリースケージの建築仕様や放鳥個体の搬送・管理からソフトリリースケージでの飼育作業、放鳥作業について確認した。



■ 企業と連携による取組の充実

普及啓発から餌場環境整備まで、企業連携を図り取組を促進。



出雲村田製作所・島根島津・島根富士通



フジトランスポート



足立運送



出雲ケーブルビジョン